

分別収集でもごみは減らないのか

質疑 ごみの分別収集により14年度と比較して可燃物が309トしか減少していないが、もつと減少できないのか。

答弁 今かなりごみが増加しつつある状況の中で、約400ト弱の減量は、町民の理解と

協力があったと思っております。平成16年度も昨年よりごみの発生が多くなっております。年間では11月末から12月がごみの発生がかなり大きくなりますので、減量化を呼びかけていきたい。

電柱クリーンアップはどうしているの

質疑 電柱のクリーンアップ作戦とありますが、町としてどういうクリーン作戦を展開しているのか。

答弁 個人の方が電柱等の張り紙をはがすことは、トラブルの原因になります。町としては、防犯協会に子

ども会、育成会、青少年の推進指導員の方々に入ってもらい、町がピラはがしなどを委託し、防犯協会の活動の一貫として、活動するということに対応していきたい。

給食センターで地元野菜を

質疑 学校給食センターで柴田町の産品を使っていますか。

答弁 給食センターでは、15年度11月のふるさと食材週間や1月の学校給食週間に

合わせて、柴田町で生産されたキュウリやネギなどを取り入れるようにしました。16年度も同様に地場産の野菜を使うよう考えております。

調整水田は草ぼうぼう

質疑 新しい水田農業政策によって、町でも生産調整面積が約300町歩弱になります。このうち調整水田などは全く管理放置されている。町はどう指導しているか。

答弁 水田転作は全作付面積の3割約293町歩になります。そのうち実際に作物を植

えつけているのが約100町歩で、残りが自己管理、調整水田など約150町歩となります。これらの水田は確かに草ぼうぼうという所もあります。6月に減反確認を行いまして、持ち主には直接連絡をとって適切な管理をお願いしている現状です。

フェスティバルの管理・監査は

質疑 商工会が窓口になって色々なフェスティバル実行委員会をつくって行事を実施しているが、これらの管理、監査はどうなっているのか。

答弁 例えば、さくらまつりについては、町の広報誌を活用してイベントの参加をお願いしています。個人の方々や各サークルの方々の参加

もありました。ただ、商工会関係の皆さんにも参加を促しまして、昨年は部分的には商工会の青年部とか女性部関係等が出席したわけですが、その中で予算的には町の補助金は入っていません。あくまで自主事業にしていたり、ボランティアでやっていただいているのが実情です。